



コッペパンってなぜいうの

日本製のフランス語

コッペパンは、給食に出されたりして、日本人ならだれでもよく知っていますね。

コッペパンということばは、日本で考え出されたものです。はっきりしたことはわかりませんが、どうやらフランス語の「コッペ」からきた名前のようなのです。フランス語で、「コッペ」は「切った」という意味です。

コッペパンは、日本が太平洋戦争（1941～1945年）をしていたころに考え出されたものです。そのころ、食料が不足し、主食の米やパンは、配給でしか手に入れることができませんでした。今のよう、いつでも、どこでも買えるというわけではなかったのです。

このとき、このコッペパン1個が、ちょうど、一人の1食分とされ、配給されたのです。戦争が終わっても、食料が手に入らない時代は続きました。そのころ、日本を占領していたアメリカは、食糧難に苦しむ日本人のために、小麦粉をおくってくれました。この小麦粉を使って、コッペパンが作られ、都市にすむ日本人たちは、コッペパンを食べて、うえをしのいだのです。

ジャムなどをぬって食べた

コッペパンは、細長い山形をした白パンです。とてもやわらかいパンで、縦長に切って、ジャムやマーガリンをぬったり、おかずをはさんだりして食べたのです。また、アメリカは粉末になったミルクもおくってくれました。そのころの小学生は、給食の時間に、粉末ミルクをお湯にとかして、コッペパンといっしょに食べたりしました。（監修・田代 脩）

